

# 先進的な内視鏡手術に期待集まる

## 腰部脊柱管狭窄症



角谷整形外科病院 医師

矢渡 健一氏

PROFILE  
2000年琉球大学医学部卒業。先輩の指導で内視鏡手術を学ぶため2年間、和歌山県の角谷整形外科病院へ。15年から現職。日本整形外科学会認定整形外科専門医。

腰痛や下肢の痛み、しびれを伴う腰部脊柱管狭窄症。最近では、患者さんの体力的な負担が少ない最小侵襲の内視鏡手術が注目されています。疾患の原因や症状、内視鏡手術について聞きました。

### 前かがみで休むと症状が緩和する 下肢の痛みやしびれが特徴

— 腰部脊柱管狭窄症とは。  
矢渡 背骨の腰椎ブロックに脊柱管という神経の通る管があります。その管が加齢とともに狭くなり神経を圧迫することで、周辺にある血管の血の巡りが悪くなり、痛みやしびれとなって現れるのが腰部脊柱管狭窄症です。こで、なぜ腰にある脊柱管が細くなることで、下肢に痛みやしびれが起こるのか疑問に思われる人も多いと思います。通常は、脳から神経を伝って下肢に指令が伝達されます。しかしその通り道となる脊柱管が狭くなることで、神経の血の巡りが悪くなり、痛みやしびれとなり現れるというわけです。症状は、両足にだるさを感じたり、片足だけに痛みが出たりすることもあります。

— 発症する頻度の高い年代は。  
矢渡 加齢とともに脊柱管が狭くなる病変ですので、やはり高齢者が多くです。国内で約240万人、70〜80代の7〜8割、40歳以上でも12人に1人が腰部脊柱管狭窄症を発症しているといわれています。

### 患者さんの負担少なく、回復も早い 最小侵襲の内視鏡手術

— 治療法は。

矢渡 まずは血管を広げ、血流をよくする薬や痛みを和らげる薬を内服する保存的治療が中心となります。また前かがみになると痛みが緩和されるので、つえや押し車を使って歩くなど、歩き方の指導も行います。なかなか痛みが改善しない場合は、神経のブロック注射により痛みを取り除くこともあります。これは、痛みを取ることはもちろん、高齢者の場合、痛みの原因が一部分だけでないことも多いので、診断を確定させるため



にも有効です。ブロック注射をしても数日後に痛みを再発する場合は、手術を検討します。

— 最近では、内視鏡を使った手術もできるそうですか。  
矢渡 近年の先進医療では、最小侵襲の内視鏡手術ができるようになりました。手術では、背部を小切開し、直径約1.6cmの外筒管を挿入。モニター画像を確認しながら脊柱管の狭くなった部分を広げ、神経を圧迫している部分を切除します。小さな筒の中で手術を行うため、医師の高い技術と経験が必要となります。ピンポイントで悪いところだけを治すことができる手術として注目されています。また、切開する部分を最小限に抑えることで出血や筋肉へのダメージ、患者さんの体への負担も少なくなります。ほとんどの場合、翌日には歩行ができるようになります。退院できます。高齢者にとって、自分で歩けることは、その後の生活の質を高めるうえでもとても大切なことです。痛みを放置せず、適切な診断、治療を行いましょう。

わずか20ミリの切開で処置

### 「負担少ない腰の内視鏡手術」

内視鏡手術は、人体への負担が少ない低侵襲（ていしんしゅう）な手術です。背骨外科分野でも増加傾向にあり、今後さらに発展していく術式と見られています。成尾整形外科病院の矢渡健一先生に、手術の目的と効果について伺いました。

#### 痛みが少なく回復が早いのが特徴

— 背骨外科の内視鏡手術が増えているそうですか。  
矢渡 この手術は97年にアメリカで開発され、その後日本国内で発展したものです。必要機器や手術手技が徐々に発達し、近年急速に普及してきた手術方法のひとつ。脊椎外科で手術が必要になるのは「腰部脊柱管狭窄症」や「椎間板ヘルニア」が多いのですが、当院は脊椎外科手術の約7割を内視鏡手術で行っており、今後はもっと増加する傾向にあります。

— 具体的にどんな手術が教えるべきか。  
矢渡 背部を20ミリ弱切開し、直径16ミリ（小指程度）の内視鏡（カメラ付きの外筒管）を挿入。モニターを確認しながらヘルニアを摘出や必要な除圧（じょあつ）を行います。内視鏡を自由に回転させることで、従来の手術方法では見えにくいところも確実に見ることができたり、患部により近い場所にカメラがあるため、直視では見えないところを見ることができたりして、安全で繊細な操作が可能です。切開する部分

— 内視鏡手術は誰でも受けられますか？  
矢渡 再手術の場合や脊椎の変形が強い方、脊椎腫瘍などの場合は適応できないこともありますが、脊椎の多くの病態に対処できると考えられます。

— 内視鏡手術は習熟した技術が必要  
矢渡 内視鏡手術は小さな筒の中で手術を行うため、医師の技術と経験が必要になります。当院には内視鏡手術を担当する2名の整形外科専門医が常勤。また、一人ひとりの患者さんの症状や社会的背景に応じて、適切と思われる治療方法を提示させていただきます。患者さんやご家族とよく相談したうえで、適切な治療を行っています。腰痛や足のしびれや痛み、歩行困難などの自覚症状が現れたら、我慢をせずに、早めに地域の専門医にご相談下さい。



角谷整形外科病院 医師 矢渡 健一  
プロフィール  
平成12年琉球大学医学部卒業後、様々な病院での勤務を経て、背骨内視鏡手術を学ぶため2年間和歌山県の角谷整形外科病院へ。15年から現職。日本整形外科学会認定整形外科専門医。